

FTM フォーラム 第2回スマート社会ワークショップ

- テーマ：スマートハウスの可能性～住宅と電気自動車が融合する
 - 話題提供：木村文雄（積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 所長）
 - モデレーター：村上憲郎（国際大学 GLOCOM 主幹研究員/教授）
-
- 開催日時：2012年10月3日（木）16:00～18:00
 - 会場：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

[要旨]

第2回スマート社会ワークショップでは、積水ハウスの木村文雄氏よりスマートハウスの可能性について話題提供があった。積水ハウスでは、①横浜市の『観環居』、②国立市の『サステナブルデザインラボラトリー』という二つの実験住宅で、スマートハウスの実証実験を行っている。

横浜市の『観環居』（2010年竣工）は、総務省のスマートネットワークプロジェクトの実証実験住宅で、住宅と電気自動車の融合がテーマの一つになっている。また、ネットワーク技術を使ったエネルギー制御や、家族や近隣とつながる仕組みの検証を行っている。この『観環居』のベースになったのが、2006年に竣工した国立市の『サステナブルデザインラボラトリー』である。ここでは自然を取り込みながら、より少ないエネルギーで心地よい空間をつくるための様々な工夫が施されている。

二つの実験住宅のコンセプトは、自然の力を利用するパッシブ設計と、先進技術を利用するアクティブ技術を組み合わせて、「低炭素社会」と「人間性豊かな暮らし」を両立させることである。パッシブ設計とは、太陽、風、大地、水など、それぞれの土地が持つポテンシャルをうまく利用して、機器に頼らずに快適な空間をつくろうとする考え方である。

ディスカッションでは、新築ではなくリフォームでどこまでできるのか、遮音やプライバシーの問題をどうとらえるのかといった質問が出た。また、住宅を長持ちさせるためには、程よくメンテナンスしていくことで「経年美化」していくという考え方が重要であり、環境建築の評価制度も整備されつつあるが、生活者自身も意識を変えていくことが必要だといったことが話し合われた。